

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県番号	6
都道府県名	山形県

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	長井市立長井小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	5	5	5	2	32	46
児童数	158	162	148	144	142	157	4	915	

・研究の概要

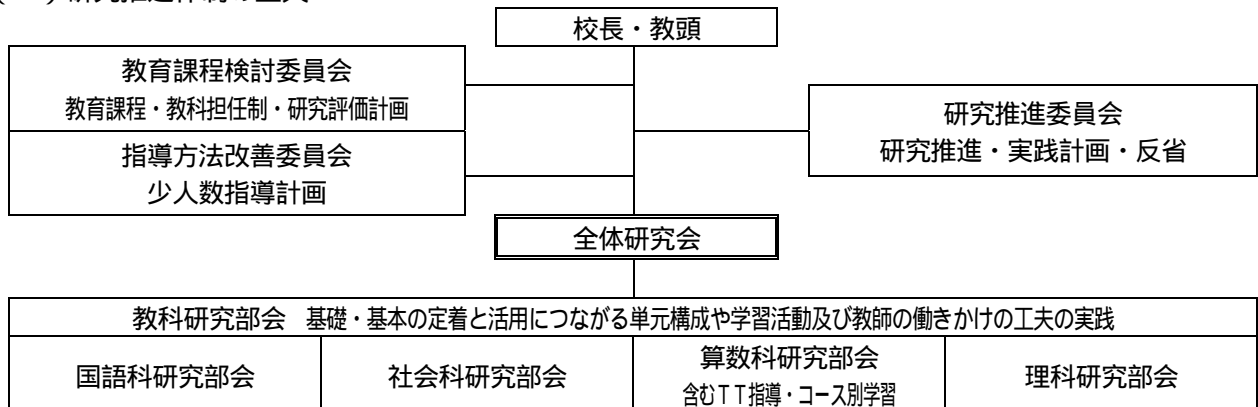
- (1) 研究主題 「めあてに向かって、目を輝かせて追究する子供の育成」
 (2) 研究主題設定の趣旨

学習指導要領のねらいである「自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力」を身につけさせることは、本校でも重要課題としている。そこで、本校では、13年度より本主題を設定して、問題解決能力の育成とともに基礎・基本の確かな定着をねらいとした継続研究に取り組んでいる。具体的には、第1年次「感じたことや考えたことを意欲的に表現する」、第2年次「進んで友達と交流し、考えをより高め合う」子供像を描きながら、国語、社会、算数、理科の授業改善を図ってきた。さらに、14年度から3年間の「学力向上フロンティアスクール実践研究校」の指定を受け、個に応じたきめ細やかな指導体制・指導方法の工夫にも力を入れてきた。

本主題第3年次及びフロンティアスクール2年次となる本年度は、「学んだことを確かなものにし、生かそうとする」子供像を設定し、ねらいを明確にし、より主体的な学びにつながる学習活動の設定の工夫に継続して取り組んでいきたいと考えた。とくに、共に学ぶ中で創り上げた内容を定着させたり、発展的に活用したりできるような活動の工夫を重点として取り組み、共に実感・納得のある「わかる楽しい授業」への授業改善に努め、研究を積み上げていきたいと考えた。さらには、TT指導を活用した少人数指導や算数科コース別学習を全学年に広げ、一人一人のよさを生かしたり、基礎・基本の確かな定着に努めていきたい。

研究の概要

- (1) 研究推進体制の工夫



- (2) 研究の実際 <基礎・基本の定着と活用につながる単元構成や学習活動の設定の工夫>
 <定着・習熟、発展的な学習の捉え方>

「定着・習熟」	子供が学んだ（創り上げた）基礎・基本を、個の学習状況や興味関心に応じて、確かめたり深めたり活用したりする学習 <基本的に学習指導要領に示す内容>
「発展的な学習」	子供が学んだ（創り上げた）基礎・基本を基に、個の学習状況や興味関心に応じて、より広げたり深めたり活用したりする学習 <学習指導要領に示していない内容>

【実践例1 国語科 ~作品を読み深め、読書への意欲を高める工夫 発展 ~】

単元名 「本の世界を深めよう ~読書座談会をしよう~」(第6学年)

設定や教材の工夫

第一次『きつねの窓』の読み取りを、第二次の『読書会』の座談会形式(小集団・1時間1つの読み口から作品を縦断的に読む)で進める単元構成により、第二次の発展につなぐとともに読書を行う際の多様な読み口を獲得させていきたいと考えた。

読書座談会に向けて、作者は自己選択、テーマ(読み口)はグループごと決定させた。形態は3~4人の小集団とし、一人一人に話す時間を保証するとともに、以下の交流の視点を与えることによって伝え合う力の定着を図り、対話するたのしさを十分に味わわせたいと考えた。

<p>＜大切にしたい話し合いの仕方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠を示す。(本文や言葉に立ち返りながら) ・相手の話を引き出すように、問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点・相違点をあげて考える。 ・話の中から疑問点を見出し、考える。 ・話題を広げて考える。
---	---

授業の実際

・第一次「きつねの窓」の学習と同時に、座談会に向けての本をテーマ(読み口)に沿って読みこみ、「読み取りメモ」を書きためていった。また、そのメモをもとに個別支援を行い読みの深まりを促した。

【本時(第二次3/4)】

読みを深めるおもしろさや、友達と楽しみを共有できる喜びを感じ取り、読書への意欲をさらに高めることができる。

グループごとのテーマに沿って読書座談会を楽しみ、自分の読みを広げたり深めたりしていこう。

『安房直子の作品』『宮沢賢治の作品』『斎藤隆介の作品』『きつねが登場する作品』『詩集 のはらうた』『金子みすゞの詩集』『シートン動物記』『ハンナのかばん、アンネ・フランク』の、8グループに分かれての座談会。

「斎藤隆介グループ」~テーマ:さまざまな作品を通して作者が伝えたかった思いは何か~

C1:「ひさの星」で、ひさは人を助けてあげたのに最後は死んでしまう。どうして死ななくてはならないのかな。

C2:自分より人を思いやる気持ちを伝えたかったんだと思うよ。

C1:うん...。でも、なぜ死ななくてはならないの。

C3:助けてあげられてよかった、って終わるとひさの奥深いやさしさが伝わりきらないから、ひさが亡くなることによって、読者に伝えるものを大きくしたかったんじゃないかな。

C1:あぁ、わかった。本のここに(本を開き指し示しながら)村の人が青く光るひさの星を見つめる場面があったけど、ひさは星のように村人全体を包み込んだってこと?

C3:うん、自分を守るのではなく、人々を守りたいという強い気持ちがあったんだと思う。温かさというか。

C2:(本文中の語句を指しながら)「八郎」でも、温かい言葉がところどころにあって、本全体にその温かさを通そうとしているようだったよ。ねえ、C4ちゃんはどう思う。

C4:9、10才で人の命を助けるなんて。そういう行動を自分だったらできるのかなあって思う。

(以下、「もちもちの木」「半日村」なども話題にしながら作者の伝えたかったことを意見交換する。詳細は略)

【実践例2 算数科 ~基礎・基礎の定着を図る学習内容別コース別学習(2C3T)の工夫~】

単元名 「分数」(第5学年)

設定の工夫

ガイダンス機能を生かした学習内容別のコース別学習(補充・深化・発展の3コース)を単元末に2時間設定し、個の習熟度や興味に応じて基礎・基本を確かに定着させたいと考えた。

授業の実際

・1C2Tによる単元学習(6時間) ・自己評価問題とガイダンスの実施(1時間)

【本時(コース別2/2)】

発展(いけいけ)	深化(くっきり)	補充(みっちり)
帯分数と小数の加減を行ったり、割り切れない分数は循環小数になることに気づいたりすることができる。	整数の除法の結果を分数で表すことの意味や分数と小数との関係の理解を深めることができる。	小数を分数に表すことができる。

<p>分数の応用問題を解こう。</p> <p>問題選択別の追求活動</p> <p>【問題 A ; 帯分数と小数の加減】</p> $1\frac{3}{5} + 1.5 \quad 1\frac{3}{5} - 1.5$ <p>【問題 B ; 循環小数の発見】</p> <p>$\frac{1}{11}$ が 2 ~ 9 の時、小数に直したときのきまり</p> <p>各問題の解法や解答の全体交流 問題選択による練習</p> <p>【A ; 小数と帯分数の 3 口の加減】 【B ; 他の循環小数を調べる】</p>	<p>商が分数で表せる問題を作ったり繰り返しよう。</p> <p>決められた分数(カード)になる整数の除法の問題文を作り、式と分数と小数で表す。</p> <p>カード ; $\frac{4}{5}$</p> <p>問題 ; 4 kg の米を 5 つの飯ごうで同じ量ずつ炊きます。1 つの飯ごうに何 kg ずつ炊けばよいでしょう。</p> <p>式 ; $4 \div 5$ 分数 ; $\frac{4}{5}$ 小数 ; 0.8</p> <p>作った問題をグループ及び自由交流で解き合う。 分数を小数で表す練習問題</p>	<p>小数を分数で表そう。</p> <p>0.2m を小数と分数で数直線(1m に 0.1 の目盛りをつけたものを個人ごとに用意)に表す自力解決。 0.04m、0.008m を分数に表す自力解決。</p> <p>全体交流での解答確認 学習のまとめ</p> $0.1 = \frac{1}{10} \quad 0.01 = \frac{1}{100} \quad 0.001 = \frac{1}{1000}$ <p>小数を分数に表す練習問題 【段階的な練習プリント】</p>
---	--	---

・学級ごとによる評価テスト(1時間)

【実践例 3 算数科 ~基礎・基礎の定着を図る学習スタイル別コース別学習(2C3T)の工夫~】

単元名 「わり算の筆算(1)」(第3学年)

設定の工夫

ガイダンス機能を生かした学習スタイル別のコース別学習(一人で解く・先生とヒントをもらいながら自分で解く・先生と一緒に解くの3コース)を単元中に2時間設定し、個の学習方法の希望や学習状況に応じて基礎・基本を確かに定着させたいと考えた。

授業の実際

・1C2Tによる単元学習(6時間) ・学習内容別コース別学習(1時間)

【本時(コース別2/2)】

<p>百の位及び千の位への繰り上がりのある(3位数)×(1位数)の筆算を計算することができる。</p>		
<p>1. 課題をつかむ。(6分) 『くり上がりが2回ある3けた×1けたの筆算をといてみよう。』</p> <div style="text-align: right;"> $\begin{array}{r} 153 \\ \times 4 \\ \hline \end{array}$ </div> <p>問題や先生の話聞いてコースを選択する。<ガイダンス>(4分)</p>		
<p>A ; 一人で解く・練習問題を多く</p> <p>2. 見通しを持つ(5分)</p> <p>3. 自力解決をする。(5分)</p> $\begin{array}{r} 153 \\ \times 4 \\ \hline 612 \end{array}$ <p>4. 考え方を発表しまとめる(10分) ・考え方筆算で確かめる。</p> <p>5. 千の位に繰り上がる問題を解く(5分)</p> <p>6. 発展・習熟問題を解く(18分) 【4位数×1位数】 【各自問題作成】 【自由交流で作成問題を解き合う】</p>	<p>B ; 先生にヒントをもらいながら解く・練習問題も解く</p> <p>2. 見通しを持つ(5分)</p> <p>3. 自力解決をする。(9分)</p> <p>ア、考え方筆算 イ、筆算</p> $\begin{array}{r} 153 \\ \times 4 \\ \hline 12 \end{array} \quad 3 \times 4$ $\begin{array}{r} 153 \\ \times 4 \\ \hline 612 \end{array}$ <p>200 50×4 400 100×4</p> <p>4. 考え方を発表しまとめる(12分)</p> <p>5. 千の位に繰り上がる問題を解く(8分)</p> <p>6. 習熟・発展問題を解く(11分) 【段階別プリント】</p>	<p>C ; 先生と一緒に解く・できれば練習問題も解く</p> <p>2. 見通しを持つ(8分)</p> <p>3. 自力解決をする。(8分)</p> $\begin{array}{r} 153 \\ \times 4 \\ \hline 12 \quad 3 \times 4 \\ 200 \quad 50 \times 4 \\ 400 \quad 100 \times 4 \\ \hline 612 \end{array}$ <p>4. 考え方を発表しまとめる(13分) ・考え方筆算をもとに筆算でやる</p> <p>5. 千の位に繰り上がる問題を解く(8分)</p> <p>6. 練習問題を解く(8分) 【適用題3問】</p>
<p>7. 学習を振り返る。(5分) ・各コースの学習内容の説明 ・コース選択や学習に関わる感想</p>		

・1C2Tによる単元学習(1時間) ・学習内容別コース別学習(1時間) ・学級ごとの評価テスト(1時間)

(3) 研究の成果と課題

本年度、重点として取り組んできた補充・深化・発展的な学習の設定については、『これからのしたい』と答えた児童は76%に達し、その理由として、「勉強したことがもっとわかるようになるから」(76%)、「勉強したことより難しいことや新しいことがわかるから」(56%)などを挙げている。基礎・基本を学びなおしたり、活用したりするなど、定着・発展につなぐ単元構成を工夫したり、学習状況に応じた教材や活動の設定を工夫したりしてきたことは、本校でねらいとした基礎・基本のより確かな定着につながったと考える。

重点単元におけるガイダンス機能を生かした学習内容別や学習スタイル別のコース別学習の実施は、基礎・基本の確かな定着を図るために効果的であり、実施後のまとめのワークテストの好成績<例「3年かけ算の筆算」: 全国平均正答率82% 学級平均正答率89%>につながった。また、『これからのコース別学習をしたい』と答えた児童は82%に達し、その理由の中で、「コース別学習をすると勉強がわかるようになるから」と答えた割合が昨年度より上がった(37% 46%)。また、実践を繰り返す中で、児童自身の実態に適したコースを選択する力もついてきた。さらには、全学年の保護者からも、個に応じた指導の機会の増加、基礎・基本の確かな定着への期待等から、『今後も進めて欲しい』という賛同(71%)を得ることができた。

基礎・基本の定着と活用につながる単元構成や学習活動の工夫としての補充・深化・発展的な学習の設定については、コース別学習と同様に、教材作成に大変難しさを感じた。ただ、『今後はしたくない』と答えた児童の主な理由が、「何度も同じ勉強をしたくないから」「違う勉強をしたいから」などを挙げていることより、単元構成や学習内容の工夫を進めるとともに教材や教師の働きかけを一層吟味して、基礎・基本の確かな定着につながるように、今後も実践を積み上げていきたい。

(4) 研究成果の普及の方策

フロンティア授業研究会の開催

- ・期日 第1回;5月21日 第2回;6月18日 第3回;9月17日 第4回;9月24日 第5回;10月22日 第6回;11月22日
- ・会場 本校
- ・対象 置賜小中学校全教職員希望者、群馬県邑楽町教委・教頭会

フロンティアティーチャーとしての研究成果の普及

- ・期日 10月3日
- ・会場 飯豊町立第一小学校
- ・対象 飯豊町内各小学校研究主任及び第一小学校職員

本校ホームページへの研究内容の掲載 (<http://www2.jan.ne.jp/~nagasyou/>)

平成16年度 研究発表及び授業研究の公開(予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	<input type="checkbox"/> 15年度からの新規校	<input type="checkbox"/> 14年度からの継続校		
【学校規模】	<input type="checkbox"/> 6学級以下	<input type="checkbox"/> 7～12学級		
	<input type="checkbox"/> 13～18学級	<input type="checkbox"/> 19～24学級		
	<input type="checkbox"/> 25学級以上			
【指導体制】	<input type="checkbox"/> 少人数指導	<input type="checkbox"/> T・Tによる指導		
	<input type="checkbox"/> 一部教科担任制	<input type="checkbox"/> その他		
【研究教科】	<input type="checkbox"/> 国語	<input type="checkbox"/> 社会	<input type="checkbox"/> 算数	<input type="checkbox"/> 理科
	<input type="checkbox"/> 生活	<input type="checkbox"/> 音楽	<input type="checkbox"/> 図画工作	<input type="checkbox"/> 家庭
	<input type="checkbox"/> 体育	<input type="checkbox"/> その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無		
